

ケンタッキーブルーグラスで

省力放牧



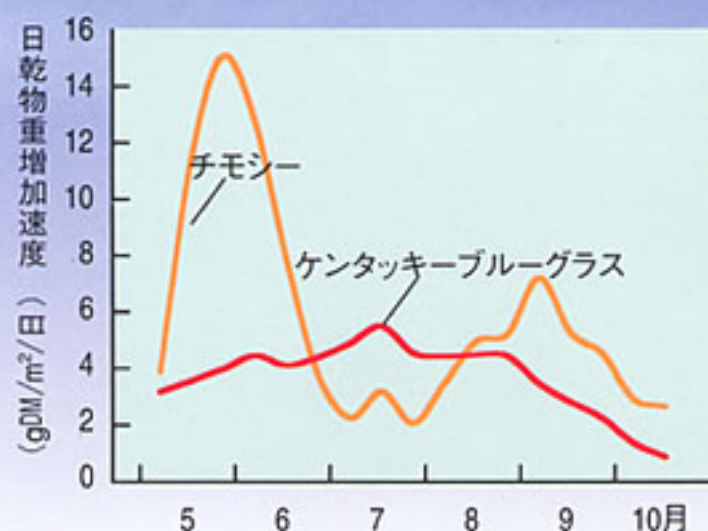
ケンタッキーブルーグラスはヨーロッパ原産のイネ科牧草で、
季節的な生育の変動が小さく放牧利用に適しています。
この特徴をうまく利用した省力的な放牧方式を検討し、
高水準の生産性があることを実証しました。

おいしさ、
深化。
by 北農研



ケンタッキーブルーグラス放牧草地のお話

1 ならかな成長スピードは省力的放牧にぴったりです

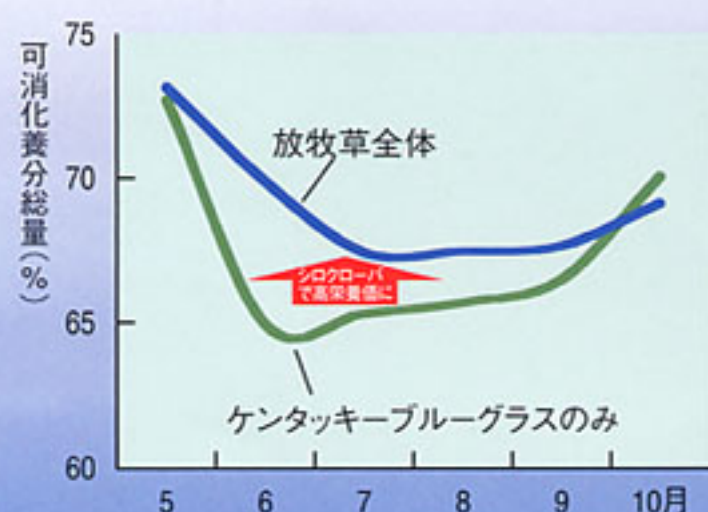


チモシーの成長速度は春や秋に高く、夏に激しく低下するカーブを描きます。そのため、草の生育が最も盛んな春は採草するか放牧頭数を増やすなどの工夫が必要となります。

一方、ケンタッキーブルーグラスは春から秋までの変化が非常に小さいので一定の放牧頭数で放牧（定置放牧）できます。つまり、放牧頭数を調節する手間や余った牛のための放牧地の準備が不要となり省力化できます。

注) 品種:ホクシュウ(チモシー)、トロイ(ケンタッキーブルーグラス)

2 シロクローバを加えれば栄養価がアップします



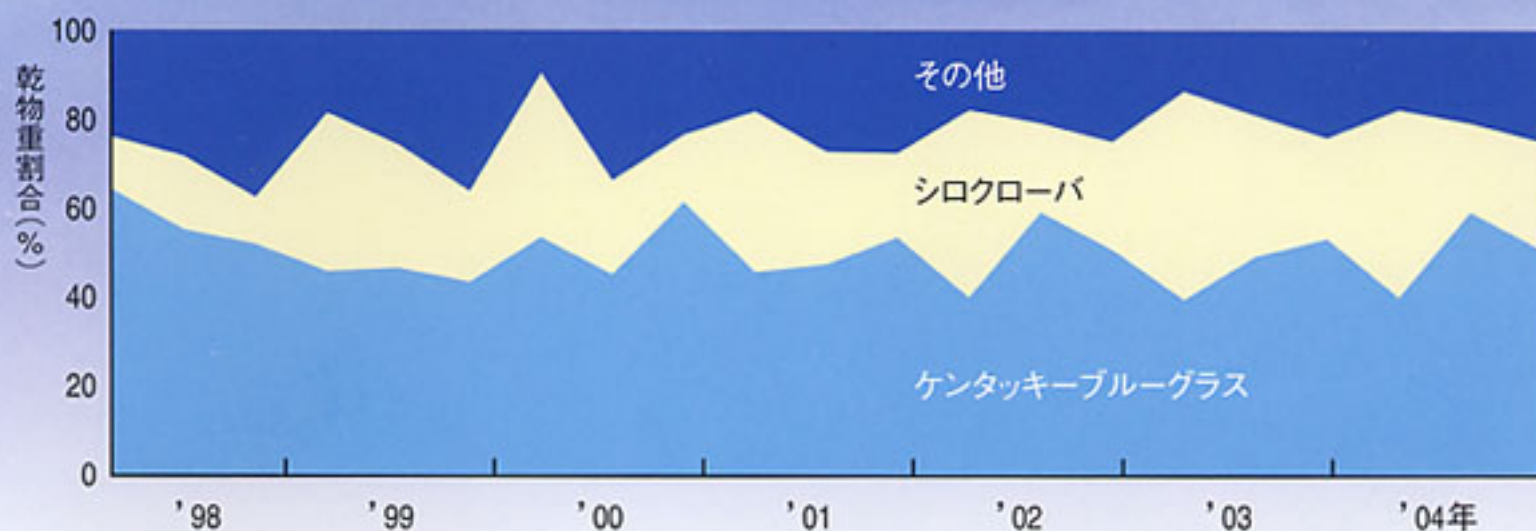
ケンタッキーブルーグラス自体は栄養価が高い方ではありませんが、栄養価の高いシロクローバ*と混播することで放牧草全体の栄養価の改善が図れます。

*シロクローバの品種はソーニャ(中葉型)



ケンタッキーブルーグラス放牧草地のお話

3 良好な植生が維持できます



牧草地では数年間利用を続けると、徐々に牧草が減少するとともに裸地や雑草が増え、草地更新をしなければならなくなることが多いのが悩みの種です。また、マメ科牧草が消えてしまったりすることもあります。

ケンタッキーブルーグラス主体草地の植生は季節的な変動はあるものの長年にわたり大きな変化はありません。また、マメ科牧草の割合も20-40%程度と良好に維持できます。

このようにケンタッキーブルーグラスは寒冷地での放牧利用にとってもよくマッチした草種です。

4 定置放牧でも家畜生産性は良好です

- 1 放牧日数 **181日** (開始:4月25日、終了:10月22日)
- 2 ヘクタールあたり増体 **827kg/ha**
- 3 日増体 **0.95kg/頭・日**
- 4 延べ放牧頭数 **550頭・日/ha** (体重500kg換算)

札幌で3年間(2001-2003年)にわたり、ホルスタイン去勢育成牛(入牧時の月齢6ヶ月、平均体重230kg)を定置放牧した結果です。牛の放牧管理に手間のかからない定置放牧でこのような良好な生産性が得られました。なお、入牧時の放牧圧(放牧地面積当たりの放牧牛の合計体重)は、約1100kg/haです。

管理のPOINT

- 栄養価の高いシロクローバを混播します。
- 放牧圧が低いと牧草が伸びすぎて栄養価が低下します。牧草の成長量と放牧牛の採食量がつり合う程度の放牧圧にします。



ケンタッキーブルーグラスの穂

お問い合わせはこちらへ・・・

北海道農業研究センター

情報資料課 Tel. (011) 857-9260 Fax. (011) 859-2178